

発達心理学研究編集委員会よりお知らせ

『発達心理学研究』第25巻特集は依頼論文と公募論文から構成することになり、下記の要領で論文を募集することになりました。以下に企画趣旨や投稿に関する注意事項を記しますので、会員の皆様、奮ってご投稿下さい。

■テーマ

「道徳性・向社会性の発達」

■企画趣旨

わが国の学校教育の世界では、「道徳教育」を教科にするといった議論が出てきている。道徳性の発達研究に関しては、Piaget, J. (1932)の「児童の道徳的判断」の研究に端を発し、その後 Kohlberg, L. (1969)の研究の中などで論じられてきた。最近では、Perner, J. (1988)らの「こころの理論」からの見直し、Turiel, E. (1983)や Smetana, J.

(2006)たちの「社会的—認知的領域理論」からのアプローチなどが主流となっている。さらには、Lickona, T. (2001)や Narvaez, D. (2006)の品格教育(Character Education)の流れも、道徳性の発達を論じるには欠かせない。また、向社会性の発達に関して、Eisenberg, N. (2005)の精力的な研究や、Hoffman, M. (2000)の共感性や罪悪感からのアプローチ、Batson, D. (2011)の実験社会心理学的な説明など、新しい動きがある。

「道徳教育」を論じる場合、「道徳性」がどのように発達するのか、どのような要因が影響しているのかを理解することは一つの重要な観点である。そこで、発達心理学における「道徳性・向社会性の発達」の現状と今後の可能性について、特集を組んで幅広く会員の方々の知見を集約し、活発な議論が起こることを期待したい。

現段階においては、以下に掲げるような依頼論文と公募論文がほぼ半々の割合になるような構成を考えている。広く会員から、今回のテーマを深めると同時に視界を広げるような、独創性に富む論文を募ることにしたい。

<依頼論文テーマ(予定)>

- ・社会的領域理論からみた児童の社会的道徳判断
- ・多様性についての理解の発達：相対主義と寛容性の判断からの検討
- ・「よい行為の習慣を育む」教育と人格形成；character education の理論と実践
- ・神経生理学的な共感研究から分かること
- ・学校予防教育としての道徳性および社会性の育成

■責任編集者

二宮克美(愛知学院大学)・遠藤利彦(東京大学)

■投稿に関する注意事項

- ・投稿締切日：2014年1月31日(厳守)
- ・投稿手続き：一般の投稿論文に準じますので、「発達心理学研究」投稿に関する諸規定を熟読の上、ご投稿下さい。なお、投稿の際には、連絡事項欄と投稿論文の論文題目の冒頭に「第25巻特集への投稿論文」である旨を必ず明記して下さい。